

ロータリーの原点。そして未来…

●出席者（敬称略）

チャーターメンバー	猪川 秋 夫
チャーターメンバー	篠原 敏 夫
チャーターメンバー	高原 勇 太 郎
チャーターメンバー	三 木 軍 次

●司会

記 録 委 員 長	石 村 直
記 録 委 員	丸 尾 吉 郎
記 録 委 員	山 川 浩 一 郎
記 録 委 員	曾 根 義 泉

開催年月日 平成4年11月4日 午後2時から

開催場所 梅錦山川株式会社本社



司会者 本日は、ご多忙中のところお越しいただき有難うございます。ご案内申しました様に、川之江ロータリークラブ三十年誌作製にあたって、30年を振り返って創立の時のこと、また、今後の川之江ロータリークラブの進み方などお話し、記録誌を飾りたく思います。

一川之江ロータリークラブ 設立の経緯一

先ず、設立された時の経過ですが、「10年の足跡」を拝見すると、篠原敏夫様が詳しく書かれておりますので、色々の事情がよく解ります。その資料によりますと、当時のロータリークラブが生れるまでの一般社会情勢や経済情勢が、ロータリーが生まれる雰囲気にあったことが読みとれます。「戦後は終わった。」と経済白書に嘔われた昭和30年代の初め、中小企業関係も経済的に潤って来たということで、商工会議所並びに経済懇話会などを通じて、他のクラブから働きかけがあったと記されています。当時既に川之江ライオンズクラブも出来ておりましたし、その辺りから当クラブの発足についてお伺い致したいと思います。

猪川 今のお話の通りで、この近辺では三島が出来てから5年目にやっと当クラブが出来たが、何故遅れたかははっきりと掴めません。ライオンズクラブや経済懇話会とかに気兼ねして、ロータリークラブに入ることが遅れたのではないかなあ。

高原 そうですね。機運としてはやらなきゃいかんという所に来ておったと思う。創るのは会議所が中心になった。というのは、専務理事の篠原氏と、何度も熱心に勧めに来た今治商工会議所の森さんが親密であったので、

会議所の会頭、副会頭が何度も寄り合って、ああいう処まで進んだのです。10年史に書いてあるところを見てもよく解るが、出来るまでは随分と苦勞があった様に思います。

猪川 今治に限らず、新居浜、西条、三島からも再三勧誘があったんです。併し直ちに受け入れなかったところに問題があるんじゃないか、5年も三島よりおくれたのは、矢張りそこに迷いがあったというか、周囲に気兼ねして何処にしようかに迷っていた。厭というのではなくて、迷っていたと解釈してもいいのではないかなあ。

司会者 と言うことは、今治は四国地区では一番古いのですが、そこから強い働きかけがあったこと、それを受けて商工会議所とか経済懇話会が中心となった感じを受けました。ロータリーは職業人の集りだから、会議所との関係が出来たということですか？

高原 そうではなくて、前に申した様に、森さんの勧める力が強かった様に思いますなあ。人的な関係が主体となって、そういう形になったと思います。

一商工会議所が中心になった一

司会者 川之江経済懇話会でも二度会合したと言われていますが、懇話会との関係はどのようなものですか？

篠原 私はその当時、その問題に介在していませんでしたが、私の聞いてきたことは、経済懇話会が「古辰」で二度会合した時、ロータリークラブはどうかという話題が出たということです。猪川さんの説明された様に今治の森さんが、篠原専務に熱心に呼び掛けられたということで、会頭の高原さんが創立委員長で、猪川、毛利副会頭、篠原専務が中心に



なられたことを、私は篠原専務さんから聞きました。

私は戦争中東京で焼け出されて、その時古本屋で手に入れたのが、ポールハリスの「ロータリーの理想と友愛」であり、大いに感銘を受け、こんなものが出来たらなあと思っていた。今治ロータリークラブが戦前から既に出来ていたの、そういう時に専務に”どうぞ”と勧められて入った。

創立総会では、高原さんが創立委員長として挨拶される筈の所、親戚のご不幸で毛利治良副会頭がご挨拶されたのを覚えています。
司会者 創立当初の動きをお伺いしましたが、昭和37年の設立時の動きとしては、前年のライオンズクラブの設立がありますが、その頃から具体的になったのでしょうか。

高原 いや、そんなに長い間のことではない。いま話があった様に、経済懇話会とか、途中でいろいろあったが、それも懇話会の方は話が有ったが話題に上った程度で。

篠原 会議所がプロモーターになった。これは事実なんです。

高原 森さんが熱心に来られ、最後は会議所が主体になってやる事が決まったんです。いろいろの話の揚句会議所が中心になった。割り合い時間は掛からずに行けた様に思いましたが。

猪川 当時の274地区のガバナー三宅徳三郎先生の耳に入った。「何とか出来ぬものか」と先生の方からご来訪ください、私がお会いし一ぺんに決まった。三宅ガバナーのお力が影響したのではないかと思いますなあ。

山川 決まってからは一瀉千里で、その代わり、役員、会頭、副会頭はそれまでは大変ご苦勞があり、お膳立てが出来たということでは

しょうか。

高原 そうということですか。

篠原 ライオンズが出来たことは一つの促進剤になったし、川之江にそういう土壌が出来て来たということですね。

高原 普通なら逆ですな。ロータリークラブが先に出来なくてはいかん訳ですわ。

司会者 会員をお集めになるときのご苦勞話の一つ。また、ライオンズクラブとの関連などをお聞かせ下さい。

篠原 私の入会の時は、猪川さん、高原さんがわざわざ訪ねて来てくれまして、メンバーにならんかとおっしゃって下さったのです。会議所の方々のご苦勞が伺われるわけです。

司会者 今のお話で割合決まったら、スーッと行ったというのですか？

高原 そうは簡単にまいりませんよ。

司会者 ライオンズとの関係もあったと思います。皆様のご理解がどれだけあったか。

篠原 それはまあ白紙で臨んだ方が多かったでしょう。会議所の最高幹部の方々が勧めてくれるんだから悪いものではなからう。付き合いで入ろうという人が大半だったんじゃないでしょうか。

高原 率直に言って誘いに行く我々としても、ロータリークラブについて今日程理解がなかったのでやりにくかった。実際の問題としては。

三木 私もロータリークラブが出来て、それは結構なことだと思ひ、メンバーを聞くと先輩の人々も多いし、毛利さんとか紙の関係者が多い、薬品を扱っている人もいるし、これは大変いいこっちゃなあと思ひて入会させて貰いました。

猪川 発足当時の原理は、「人間は生れながらにして100%利己主義のものだが、この際

ロータリークラブに入って、自分だけ考えの利己主義ではなくして、相手との関係があれば、20%~30%譲って行かんといけない。これがロータリークラブなんだ。」と言われていましたが、三宅先生の説も結局は同じで、没我の精神、自分を捨てて奉仕する—そんなことは一般の人に出来ることではない。

また、いろいろな奉仕があるけれども、ロータリーはそんなむずかしい事は考えずに、一口で言えば、普段の生活に於いて相手の立場を考える。これだけでいいのだ。これが四つのテストに具体化されている、相手の立場を考える余裕を持つてというのが、ロータリーのまことであり、これが今日まで一般に受け入れられて来たと思いますね。

一クラブ設立の恩人 三宅徳三郎ガバナーのご努力と 特別代表合田謙次郎氏のこと—

司会者 三宅先生のお話が出ましたが、この方は川之江ロータリークラブ創立には忘れられない方と伺っていますが。

高原 三宅先生は珍しい人物ですな。川之江の場合は、初めから良くして頂いたという印象です。ガバナーは多く見えたが、恐らく三宅先生のような方は無いでしょうなあ。

猪川 そういうことですね。三島が全クラブあげて、川之江を応援する三宅先生の指導によって行なうということで、三島はスポンサークラブとなり、特別代表に、三島クラブの四代目会長の合田謙治郎さんがなられました。

篠原 三宅ガバナーは2度勤められたが、川之江クラブは当初と合せて2回お世話になりました。論旨は明解で説得力があり、淳々と

して格調高いスピーチに感銘を受けました。

特別代表と三宅ガバナーとは、三豊中学時代の同級生で、そんな関係で合田さんに特別代表を委嘱され、お互いに相通ずるものがありました。職業分類にも苦労されました。

司会者 職業分類についてもお話をお聞かせ願いたい。一業種一会員のロータリークラブで「紙のまち川之江」では、「紙」という職業分類ではロータリークラブは成立しません。篠原 職業分類についてガバナーに報告すると仲々通じない。合田代表も、英語の達者な菰田尚夫君にいろいろ修正してもらって出すが戻ってくるので、三宅ガバナーも大変心配された。

結果として、「産みの苦しみと、陣痛の時間が長かったから、産まれた子はかえって健全になった。」と、ガバナーが発会式の時、告辞の中に述べられました。他のことはスムーズに通じたが、職業分類は難しかった。

猪川 一時、川之江クラブはRI本部で仲々承認にならない。職業分類から見ると製紙関係ばかり。本部はそんなのは受け取らない。三宅先生が、「それは止む得ぬことだ。川之江は日本で第二位の製紙工業地帯で紙を除けば産業が無いくらいだから、職業分類を認めないのならロータリークラブは出来ない。」とまで言って下さった。その結果、止む得ないなあということで認可になった。

司会者 相当細かい分類がなされていますね。

高原 特別代表も苦労しましたわな。併し、同級生やからまあ効果があったと思います。

猪川 特別代表といいましたら、三島がスポンサークラブとしてガバナーの大綱を示し教えてくれ、その代表としてよく世話してくれました。



三木 特別代表の合田さんも紙関係で、大変お世話になったなあ。

司会者 創立当初のチャーターメンバーは？

篠原 27～28名だったと思います。

高原 28名です。昨日事務局に調べさせたら33名になっております。これは一寸調べないかん。

司会者 準備会で29名ですね。

石村 ロータリーのチャーターメンバーの語意について、古いRIの手続要覧によると、「創立したロータリークラブが、RIに加盟を承認された日までに入会していた会員」となっており、川之江の場合は、昭和37年12月10日にRI加盟が承認され、その直後の12月21日にチャーターナイト準備会が開催されていますが、その時の会員は29名ですので、29名が正しいと思いますが再調査してみます。

注：後日の調査で、RI事務局から公文書として、「List of Charter Members」が送付されているのが発見された。その公文書には29名がタイプ印刷されている。

—創立総会—そしてチャーターナイト—

司会者 三宅先生、合田特別代表のご努力で創立総会に漕ぎ着けました。創立総会についての思い出は如何ですか。

篠原 創立総会は夏の暑い時だった。総会の次には、チャーターナイトが大きな問題となってくる。そのための準備に家族同伴で、あちこちのクラブのチャーターナイトに出掛け勉強しました。先ず、高知の安芸へ行き、西条、善通寺へも行った。

チャーターナイトは翌年4月28日、川之江高等学校の体育館で行いましたが、その準備に会員奥様全員出られ何回も打ち合わせして、それぞれの会員が美事に特技を發揮して、思わず見直したこともあり大きな収穫でした。こうしたことを端緒に知り合いが親睦になり、友情になって行きました。

—楽しい例会作り—会員増強へ—

司会者 川之江ロータリークラブの創草期には、そうした会員相互の親睦、融和が有ったわけですね。当初10年間の間のご活動は。

篠原 ロータリークラブが出来て、先ず広報活動をしなければならなかった。また、内部の充実も計らなくちゃいかん。これが当初の課題でした。先ず卓話の充実を計り、ロータリーを楽しいものにしようと工夫した。月1回の外部卓話、他は内部卓話ですが皆尻込みするので、それで結婚記念日・誕生日を話題にして卓話をしてもらったり、他ロータリーからのメーキャップ会員に、そのクラブの内実を語ってもらったりしました。

そういえば、ロータリーソングの歌い方に元気がないとメーキャップの会員に話され、奮起して月2回小学校の音楽の先生に頼んで練習しました。広報活動では、猪川会長が「川之江時間」に対するルーズな悪習慣を止めようと、「定刻開会定刻閉会」を提唱され、先ずロータリークラブから範を垂れようと時間の励行に努め、この実行が当地に定着して行ったと言っている。

堀江青年の太平洋ひとり横断の講演会の開催やら、4つのテストの子供用のもの。これは善通寺ロータリーが作ったものですが、これを了解を得て配布したり、とにかく例会を



たっていましたが、もう少し金の掛からぬ工夫を考えないといかんとする。

それから、式典では姉妹クラブから大挙して来てくれた経緯はいろいろあった様だが、それはそれで結構として、姉妹クラブの人々へ精力を費やし過ぎて、近隣クラブへの接待が、つい手薄になったのではないか。遠い親戚より近所が大切だと言うが、その通りで、近隣クラブからの来訪者に、姉妹クラブへの接待方法と比較して疎外感を与えたのなら困る。これからは近隣クラブとの対応、対策も考え、何時も密度の高いお付き合いをして情報の交換をすることが大切なことだと思いました。

また、こういったことは言うて良いかどうか・・・だが、例えば、一つの行事に当たって予算をオーバーした場合、「オーバーしても構わない。オーバー分はポケットマネーから出せば良い」というような考え方が有ったとしたら、今問題になっている政治資金問題と一緒に、やるんなら一応クラブの経理を通して二重構造にしない方が良くと思う。それがロータリーらしい爽やかさで、すっきりした方法が良いのではないかと考えるのです。これは私の偏見であればお許し頂きたいのですが・・・。考えておきたいのはロータリーのすることは派手だと言う印象を一般大衆に与えたらマイナスになります。私はなるべく金を掛けない奉仕の方法がないものだろうかと考えるのです

例えば、司法や税理に関する職業人はその知識を提供し、医師は地域の健康問題を取り上げる等、その職業分野で専門的知識経験を有する会員が、その能力を発揮できる奉仕の道を考えるべきかと思えます。

奉仕活動に必要な財源は、財力の有る会員が基金として献金する等、とにかく会員がそれぞれの職業と身分に応じた奉仕の方法をお考え頂きたいと思えます。

失礼とは思いましたが私の忌憚のない意見です。

司会者 高原さん如何ですか。

高原 私はそうした噂は聞かんことにしているが、少しやり過ぎた面も有ったのではないかと思いますなあ。これは後刻参考になりましょうから、今後どういう風にやられるか知りませんが、とにかくそういう点を注意してやって頂ければいいのではないかという感じが致します。

一川之江クラブの今後の発展への注文

司会者 30年という一区切りを皆さん盛大にやりたかった。あれもやりたい、これもやりたいという中でおやりになったという事で。

非常に成功した式典で有ったと思えます。先輩諸氏の「ロータリーの原点に戻って」とそういうことも、反省材料としなければいけないと思えます。これで30年、一世代終ったことで、今後新しい一歩ということではないかと思えます。30年経てば伝統ということになると思えます。今後の川之江ロータリークラブの行き方についてお話を伺い、皆様にお伝え致したいと思えますので、どうぞ。

篠原 一般のクラブでは、年のとった年令と若い年令層との間に断層がある。併し、川之江クラブでは初代会長始め長老がおられて、何時行っても断絶が無い、羨ましいクラブだと他クラブの人々から褒められるが、断絶の

どのようにしたら楽しいものになるかに苦労しました。

司会者 会員増強については如何ですか。

高原 一口に言って、会員全員の方々がそれに興味を持たれ、協力いただいたことに尽きる様に思います。猪川さんと交代で委員長をし、向うから言って来てくれたので、猪川さんと二人で苦労したということではありません。けどね、特に最近、会員増強は他に見られぬ程成果を上げている様に思いますなあ。

司会者 広報に力を入れられ29名の会員を増加させ、是非入りたいという人が増えて来たということですか。

篠原 会員増強では、質か量かということで、いつもこの二つの意見が対立して来ました。三宅ガバナーもいろいろご経験がお有り、増加を計るに際して質を重んじるということで会員候補者に反対を唱え、意見が通らねば脱会ということを目指された古い熱心な会員の対応に、断固として「長年の友情には代えられぬ」として、その古い熱心な会員の意見を採られたことを伺ったが、今も胸打つ思い出です。我々にとっても当時は大きな課題でしたから。

—地区年次大会の思い出—

司会者 時間も経って来ましたが、30年を振り返られ、色々と心に残る方々、又、出来事も多かったと思います。地区大会へ参加された時の思い出などは、どのようなものがありますか。

篠原 高松で初めての年次大会が開かれ、川之江クラブはまだ認証されていないので、仮クラブで行きましたが、雰囲気は大いに感激しました。多くの古い友人にも会うことが出

来まし、家族同伴の出席で観光旅行もし、親睦が更に深まりました。

チャーターナイトの時は、お客様は大体200人ぐらい。あれだけのメンバーでそんな大会を持てたのは、如何に必死だったか解っていただけたと思います。

高原 篠原さんの言われる様に今になって解るが、その時は必死だった。

私は創立總會の時、娘の嫁ぎ先の父親が亡くなったので、当日は出席出来ず、折角自分がやってきたのに参加出来なかったのが、今日になっても残念です。

篠原 「ロータリーにユーモアを」ということで、猪川さんが「ニックネームをつけよう」ということを提唱され、幹事をやられていた高原さんのご子息の慶一朗さんが欧州旅行に出掛けられたので、慶一朗さんには「旅役者」と付けられたり、如何にロータリークラブに魅力を持たせるか努力苦心されたものです。司会者 姉妹クラブの台湾クラブにも「ニックネーム」を付けておりますね。

篠原 併し、ニックネームはどうも当クラブでは定着しないで終わりました。

—30周年記念大会について—

猪川 今年の30年の記念式典には本当にご夫人方のご活躍は良かった。男だけのロータリーではない・・・気持の問題ですからね。

篠原 ロータリーを更によく理解してもらうには、ああしたイベントはいい機会ですね。

司会者 家族ぐるみということが良かったし、盛大な大会だったと思います。

篠原 この30年の記念事業を見ていて率直に言わせてもらおうと、・・・失礼だが、幹事の息子によく電話が掛かってきて苦情処理に当

無いのは川之江クラブの特色で、今後とも伝統として残して欲しいと思いますな。

猪川 その点はいつも高原さんと話します。川之江クラブは老、中、青の三つのクラスがきちんと立場を考えて、老人組の人々はあまり喋らない。実際の仕事は老人以外に任す。結局は中年が現在のロータリークラブを巧く運営している。新人会員はじっくりとそれを見て、中年になった時のやりたいものを勉強している。それがきちっと解ります。目に映ってその三部がうまく調和して、川之江クラブは良いクラブだとつくづく感謝している。

高原 とにかくいつ例会に行っても、うちはいいなあと言っています。

司会者 それは伝統となっているので、今後とも続けて行くことですよ。

三木 我々は何もせずにいるが、会員も若くなり、このことに感謝している。ニコニコ出来ないかなあ。

高原 例会をみんな、いつも和気霽々としていて年令も若返って本当に愉快だなあ……と、つくづく思いますね。

三木 我々も知らない人が多い、若い人はな。

司会者 私も都会でよくメーキャップしますが、都会ではメーキャップの方が多いせいか中途退席が多く見られ、又、会によっては私語の方が多い。川之江クラブはないということは、今のお話の和気相合いの中に入るのはありませんか。

篠原 それは三宅先生の感化を受けて、品位のある例会、品位を持ったユーモアというものの、私は教えられましたね。

高原 私語のことが今出ましたが、30年記念式典の事を担当の人々が、色々話される度にあちこちで私語が起きる。私は最近少し注意

してみると私語が多いので、肝心の会長が話するとき聞きづらい点があるので、それとなく注意しておいて下さい。

篠原 又、会員をこれ以上増すのなら、別にクラブを作るべきではないか。会員のコミュニケーションから考えると、今がもうその限界ではないか、我々の時はその家庭の事情まで解るくらいであった。炉辺会合は家庭持ち廻りでやることに効果が有った。

経済的な問題も有るし、難しいことも有るが、成るべく金を使わぬ運営ということでやり、あまり会員を増やさない、会員相互のコミュニケーションの濃密なものにして欲しいと思いますなあ。

高原 今話しが出たが、私も常々思い、今日案として書いて来たが、今が限界ではないかと思う。これ以上増えたら管理上の問題が起りはせんかと、今日意見として提案しようと思っていた。

司会者 それでは、どうも本日は長時間、2時間近くに互って、いろいろお話頂き有難うございました。創立当初の事は残念ながらご存知の方が次第しだいに少なくなって参りますが、記録として残していきたいと思っております。

今日は詳しいお話や、今後の川之江ロータリークラブの行き方について原点に戻ったことから、お話をいたたげたと思います。

今日は本当に有難うございました。